International Exchange Center, Nara Women's University
奈良女子大学

国際交流センター
NEWSLETTER

Dec. 2016 Vol.45

海外協定校

南京大学(中国)について知ろう！

国際交流センターでは、海外協定校である中国・南京大学にて1ヶ月間の研修「グローバル女性人材養成プログラム(中国)」を実施しています。1年間の中国語学習を修了した学生なら誰でも参加可能です。この研修で南京の魅力を知り、交換留学へ繋がる可能性もあります。研修の引率者である大平幸代先生に南京で勉強する魅力について寄稿して頂きました。

Inside This Issue

南京大学(中国)について知ろう！
“古都南京で学ぶ中国語”
准教授　大平幸代

グローバル女性人材養成プログラム(中国)参加者の声

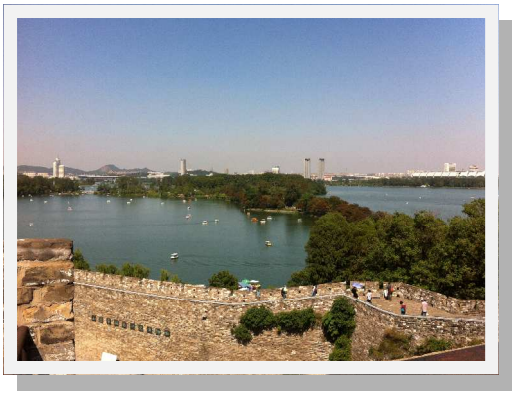
“江蘇杯”中国語スピーチコンテスト参加者の感想

センター及び国際課の活動＆センター来訪者

古都南京で学ぶ中国語

大平　幸代　研究院人文科学系　言語文化学領域　准教授

中国史好きにとって南京ほどわくわくするところはない。何といっても六朝の都。梅花山には呉の孫権の墓があるし、玄武湖の近くには陳の後主が愛妃を抱えて逃げ込んだという井戸もある。もちろん多くは後世の再建だが、秦淮河にいけば、風流な貴公子が現れる気がするし、ノイローゼ寸前の受験生が答案用紙と格闘する姿も想像できる。谷崎や芥川も訪れたあこがれの古都だ。



城壁から見た玄武湖

――やや、趣味に走りすぎた。南京は留学にも最適の場所だ。言葉は標準的で聞き取りやすい。おばちゃんたちはお節介なほど親切。南京大学は市の中心にあるにもかかわらず、緑豊かで、街の喧騒を遮断するかのような学問的気風がただよう。不思議と中国語をしゃべるのも楽しくなる。なにせ広いので、かなりの距離を歩くし、目にも耳にも新しい情報がどんどん入ってくるから、けっこう疲れる。でもなぜかエネルギーがわいてくる。これも風水のせい？古都を散策しながらの中国語づけ生活はいかが？

「南京大学」は、ここにあります！

南京大学は、江蘇省の都市「南京」に位置しています。南京は、上海から新幹線で約1時間半の距離にあります。中国四大古都の一つであり、長江と城壁(明代)が有名です。城壁は35kmあり、当時の2/3が現存されています。また、辛亥革命(1911年)後に革命の父、孫文が中華民国臨時政府の総統府を南京に置いています。古都の街の魅力もある一方、現在の南京は、人口642万人の大都市です。江蘇省の都であり、日系企業も立地しています。

南京大学

グローバル女性人材養成プログラム(中国)参加者の報告

2016年8月19日～9月17日の1ヶ月の研修に、7名の文学部の学生が参加しました。それぞれの感想の一部を抜粋して紹介します。

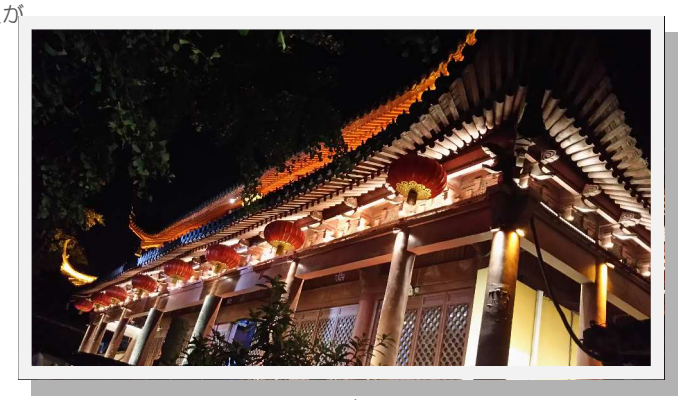
思い出では終わらない！南京

岸　佑香　文学部人文社会学科　2回生

南京で起こったことといったら、どれもこれもが面白い。

授業のない土日に、部屋で友人とお見合い番組を見た。たくさんのきれいな女性の中から男性が好みの女性を一人選ぶ、といった内容だった。番組が始まってすぐ、男性が6番の女性を選んだところで部屋のチャイムが鳴る。返事をすると、チャイムを鳴らしたのはどうやら二人の掃除のおばちゃんのようだった。おばちゃんたちを部屋に招き入れ、私と友人は再びテレビを見ていた‥のだが、ふと人の気配を感じて隣を見ると、なんとおばちゃんの一人が一緒にテレビを見ている。「おばちゃん、テレビ見ていてもいいの？」と、心の中で突っ込みを入れつつ結局もう一人のおばちゃんが水回りの掃除を終えるまで私、友人、おばちゃんの三人でテレビを見ていたことがある。

南京にいる間の１か月間、私と友人はほぼ毎朝南京大学のグラウンドにふらふらと通っていた。中国の人、特に年配の方は日本人の何倍も健康的な生活を送っている。いったい何時からやっているのか、サッカー場では大勢のおばちゃんが踊っている（毎日通っていたおかげでおばちゃんたちが踊っていた曲のメロディーは帰国した今も覚えている）。おじさんたちもウォーキングをしていた。若者たちが元気にバスケをしているなー、と思いきや実は近くで見るとシュートを決めていたのはおじさんだったこともあった。



夫子廟

南京での研修は１か月という短い期間ではあったが、私にとって毎日心躍らすような出来事だらけだった。掃除のおばちゃんたちや警備員のおじさんとも名前で呼び合う仲になった。言語は自分の世界を広げてくれるということを実感した。中国ではたくさんの人から様々なことを学んだが、研修を終えてもっとも思うことはただ一つ。それは、「この研修をただの思い出にしたくない！」というものだ。もっと中国語を練習して、できるだけ早く再び中国に行くこと、それがわたしの当面の目標になりそうだ。

実際に見た中国

西宮 千晶　文学部人文社会学科　2回生

研修参加者と

ある程度予想はしていたものの、実際に見た中国は日本の内側から見るだけの中国とはまったく異なっていました。たとえばインターネットの発達です。今まで中国と言えば情報統制がなされているというイメージが強く、中国人が頻繁にネットをするというイメージはほとんどありませんでした。しかし現実には、中国の若者は普段まったくテレビを見ないらしく、ネットでバラエティ番組やドラマ、アニメなどを見ていたり、微信(中国版LINE)を使って物を買ったりしていました。また、日本を好きな人が思いがけずたくさんいることにも驚かされました。日本のアニメやアイドルが好きという人もいれば文化が好きなのだという人もいて、理由はさまざまでしたが、日本のメディアで反日行為が取り上げられることが多い印象を中国に持っていたので、意外でもあり嬉しくもありました。

私が今回の研修の中で一番楽しかったのは、南京大学の学生さんたちとの交流です。会う前は自分の中国語レベルで何時間も会話するなんて間が持つのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし実際に会ってみると、そうした心配は不要だったことがすぐにわかりました。日本の本や文化の素晴らしさについて日本語で熱く語る人、私の話す拙い中国語を聞

き取り、中国語だけでなく時には英語を使ったり紙に書いたりしながら丁寧に説明してくれる人…。本当にたくさんの人と出会ったけれど、どの人も皆いい人ばかりでした。日本の大学に留学したことがあり、そこの学生たちにとてもよくしてもらったので、同じことを日本人留学生の私たちに返したいんだと言って、休日を返上して私たちに南京を案内してくれる学生さんまでいました。実際に行って生活してみたからこそ気づけた多くのこと、素晴らしい出会い…。たった一か月の留学でしたが、得たものは大きかったように思います。中国語を専門的に勉強しているわけでもない自分が留学など行ってもいいんだろうかといった不安は最初あったけれど、勇気を出して行ってみてよかったと、今心から思っています。

人々の暮らしぶりが最も印象的

尾藤　真弓　文学部人間科学科　2回生

何よりも驚いたのは働いている店員の態度だった。もちろん店によるが、商品を購入したとき、笑顔のかけらもなく対応されるのは当然で、商品やおつりを投げられたこともあった。寮の近くのスーパーや書店の店員から銀行員までこのような対応をするのは普通のことだった。私は日本でアルバイトをしているが、お客様が来店したときには「いらっしゃいませ」と言うし、お帰りの際には「ありがとうございました」と言う。しかし隣国ではこれが普通ではなかったのだ。

中国の店員の態度に対する漠然としたマイナスイメージから私の考え方は変わった。彼らは決して冷たいのではない。ただ普通に対応しているだけだったのだ。彼らにはきっともとからサービス精神という概念がないのだろう。実際にサービスがない社会で少しの間生活していたが、そういうものなのだと知ると完全に慣れることはなかったものの、特に何も思わなかった。それどころか形だけの接客をするよりもずっと人間味があり、飾らない姿に好感さえ覚えた。接客業におけるサービス精神はあくまで一例であるが、日本はあまりにも形式にとらわれているように感じた。もっと自由なあり方、多様性が認められてもよいのではないかと考えられるようになった。サービスがないということも中国の一つの文化であるから、そのままでもよいのではないかという考えをもつようになった。これは日本でずっと過ごしていただけではきっと得ることができなかった観点であると思う。1か月という非常に短い

南京大学周辺

時間ではあったが、大きく異なる文化を持つ環境に身を置けたことは、私にとって大きな収穫であった。今まで私が見てきたものが当然で普通、当たり前ではないということに気付くことができた。

自分の語学力ではとてもじゃないけど外国なんて無理とためらっていたが、この語学研修に参加して本当によかったと思う。中国語で受ける授業も最初はほとんどわからなかったが、最後になると7割は聞き取れるようになった。あまりに拙い中国語ではあったが、自分の話した中国語が通じたときは本当にうれしかったし、もっと頑張ろうと思えた。現地で中国語を使って初めて、今まで中国語を勉強してきた意味が分かったように感じた。また南京大学の学生は本当に勉強熱心で、日本の大学生とは勉強に対する考え方が全く違った。このことも大きな刺激になった。ニュースを見て中国は冷たい国だと思っていたが、実際にはおしゃべり好きが多く親切な人々ばかりだった。建前がなく、思うままに話してくれるという印象をもった。これも日本とは大きく異なったところだろう。

交換留学情報(中国語圏)

本学の正規課程に在籍する学生は、学生交流に関する協定を締結する大学(海外協定校)への交換留学制度を利用することが可能です。交換留学へ進む道として、まず国際交流センターが主催している短期語学研修に参加し他言語での生活を体感し、その後半年～1年の交換留学に応募する学生が多いです。毎年、本学の交換留学の募集時期は7月～10月初めです。

中国語圏の主な交換留学先(海外協定校)として、南京大学、大連理工大学、武漢大学、東海大学(台湾)などがあります。奈良女子大学でも交換留学生を受け入れており、例年南京大学から2名の学生が来ています。

詳しい交換留学の情報は、国際交流センターHP“ならじょから留学”でご覧頂けます。
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/abroad/index.html

行ってみなくちゃ分からない

金倉　茉美　文学部人文社会学科　2回生

１か月の南京生活は出国前に思い描いていたものと１８０°違うものでした。以前の私の「中国」に対するイメージは、何となくゴチャゴチャしている感じ。中国語が話せるようになればいいなと思って申し込んだ研修でしたが、中国といえば空気が淀んでいて、水や食べ物も体質的に合わなかったり、日本とは戦争や対立の歴史があることからあまり歓迎されないのではと不安に思うことの方が多かったです。

滞在がスタートして、そんな私の不安を真っ先に拭ったのが現地のおいしいご飯でした。回るテーブルにお皿山盛りで運ばれてくる肉や野菜料理。濃口のご飯がすすむ味付けは日本では食べることのできない絶品でした。１か月の間、毎日のようにこういった料理を食べ、お腹を壊すことはほとんどありませんでしたし、何と言ってもお店の人々がとても気さくで優しい。ご飯はある意味、異文化交流の入り口でした。

街の布地屋さん

店員さんに限らず、おばさん、おじさん、先生、同年代の学生さん…南京の人はおしゃべり好きでおおらかな人が多いし、私たちのような日本からの留学生に対しても、とてもオープンに接してくれます。もちろん町の様子は日本、奈良と全く異なるし、飛び交う言葉もすべてを理解することは難しいけれど、やはり根幹はコミュニケーションです。言語はもちろん重要ですが、それはあくまで伝えるための一手段であって、伝えたい気持ちや姿勢、とにかく楽しく話すということが大切であるということに気づきました。

とにかく人に話しかけて、喋って覚える

山田　実果　文学部言語文化学科　2回生

宿舎の窓からの風景

南京での1か月間、私は沢山の人と出会った。先生方はもちろん、南京大学の学生、宿舎で働く人々、ヨーロッパやアフリカからの留学生、そして同じ日本からの留学生などだ。私達と同様、南京大学に1か月間研修に来ていた日本人の学生は１０名以上いた。彼らとは中国語の授業クラスは異なったものの、中国文化の授業や南京大学の学生との交流会で一緒になった。彼らの中にはかなり流暢に中国語を話せる人が数名いた。そのうちの一人が、なぜそれほど流暢に中国語を話せるのかと尋ねられ、答えた言葉が印象に残っている。それは「とにかく人に話しかけて、喋って覚える。」というものだった。実際その人は、様々な国からやってきた留学生に積極的に話しかけ、1か月間で沢山の友人を作っていた。

南京大学概要

南京大学キャンパス内

南京大学は、1902年創立の中国の名門大学です。奈良女子大学とは1994年に大学間交流協定を締結し、以来、学生の交換留学や教員の派遣等で活発な交流を続け、親密な関係を保っています。

本学の学生の研修先となる海外教育学院は、南京大学で学ぶ留学生の募集、教育、管理を専門に行う組織です。外国人留学生のために様々な中国語学習カリキュラムを用意し、留学生のレベルに応じた中国語教育や中国の歴史、文化、社会などの分野の授業を行っています。

語学の力で自分の世界を広げていくさまを、私はその人の近くで目の当たりにすることが出来た。そして私も少しずつではあるが、毎日の授業を通して聞く力、話す力を高めることが出来た。

研修も残すところ３日となったある日、旗袍（チャイナドレス）を作る職人さんと一対一で話す機会があった。明日、私が注文した旗袍を部屋まで運んでくれるという。しかし明日は日帰りで上海に行く日である。そこで「私は明日、上海に行くため宿舎にはいません。朝早く出て夜遅くに戻ります。あっさては１日中空いています。」という旨を伝えると、職人さんはすぐに理解してくれた。授業以外の日常会話は友人頼みだった私にとって、これは一対一の緊張する会話であった。しかし同時に、自分の成長を実感できた嬉しい会話でもあった。拙い中国語を一生懸命理解しようと聞いてくれる人、はなから相手にしてくれない人、私は両方に出会った。後者に話しかけてしまい、落ち込み、自信を無くしたこともある。しかし話さなければ言葉は上達しない。「とにかく人に話しかけて、喋って覚える。」このことを忘れずに、今後も中国語の学習を継続していきたい。

現地の人との交流

石本　美玖　文学部人文社会学科　2回生

南京の現地の人との交流も、とても貴重な経験であったと思う。私たちが学んでいた校舎の警備員のおじさんや、宿舎の清掃員のおばさん、果物屋のおじさんなど、私たちに話しかけてくれる人たちの存在は大きかった。現地の人たちとの会話は、授業よりも聞き取るのが難しい。その地に根付く独特の発音があり、そして話すスピードがとても速い。しかし彼らは、私たちが理解できるまで何度も繰り返してくれたり、紙に漢字を書いて意味を教えてくれたりもした。私たちにとって最高の中国語の先生であった。

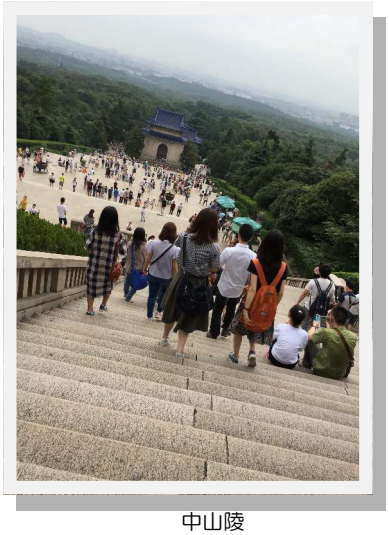
さらに、南京大学の学生さんたちとの交流会があり、中国の若者と初めて話すことができた。彼らと話すことで、中国の若者言葉を知ることができ、将来に対する意識の違いも知ることができた。彼らは一人っ子政策の中で生まれてきた世代であり、将来自分一人で両親、さらにはパートナーの両親まで経済的に支えていかなければならないと語っていた。一人っ子政策の問題についてはメディアや学校で聞いたことがあったが、実際に当事者の生の声を聞くと重みが感じられた。

狮子桥の南京大牌擋

相手と会話をするための言語への変化

三成　菜月　文学部言語文化学科　2回生

土曜日と日曜日は授業がなく、自分で計画を立てて好きなところへ出かけることができました。研修が始まって3分の1ほど過ぎたころ、授業のペースやスーパーでの買い物、夕食を食べに行くことにも一通り慣れて、いろんなところに出かけてみようという意欲がわいてきました。まず一人で城壁まで行って登ってみようと思い立ちました。言葉が通じるかどうか正直自信がない場所に一人で歩いていくことは、少し怖さもありました。クラクションを鳴らしながら通り過ぎていくたくさんのバイクや、おなかを出して座ったり寝転んだりしている道端のおじさん、走っているバスの扉が勝手に開いたのかそれを運転手が慌てて手動で閉めていたのを見た時など、外国にいるということがひしひしと実感されてどきどきしました。それでも、拙い中国語を使って学割で城壁の入場パスを買って、きれいな景色を見て、夕飯も近くの麺屋で食べて、宿舎まで無事戻ることができました。それからは街に出かけることに対して、少し自信が持てるようになった気がします。



中山陵

休みの日に今まで行ったことのない場所に出かけるなどほとんどしたことがありませんでしたが、自分から積極的にどこかへ出かけていくことが楽しい、ということに気づきました。また、こちら側に「相手の言ってることをちゃんと理解しよう」「言いたいことを伝えよう」という意思があれば、多少拙くても単語レベルでも伝わるんだということにも気づきました。自分の中で中国語の認識が、ただ学んでいるだけの言語から相手と会話をするために学んでいる言語へと変わったかもしれません。

“江蘇杯”中国語スピーチコンテスト参加者の感想

2016年12月3日(土)愛知大学にて“江蘇杯”中国語スピーチコンテストが開催されました。日中間の交流を深め、中国語の学習を促進する為に開かれた会です。日本側の主催者は愛知大学。中国語側の主催者が南京大学ということもあり、本学から2名がこの大会に参加しました。彼女達は来年、グローバル女性人材養成プログラム(中国)に参加する予定です。

加藤　沙由里　生活環境学部　1回生

私は12月に開催された中国語スピーチコンテストにおいて、初級班に出場しました。周りの出場者はみな発音が良いだけでなくなかには身振りをまじえて朗読する方もいて、とても刺激になりました。上級班のスピーチでは中国語での受け答えも採点されるのですが、出場者の方はすらすらと返答していて、私もこんなふうに話せるようになりたいと思いました。相手とコミュニケーションがとれるように、これからも語学を頑張りたいです。

川島　七緒　文学部　1回生

先生方のアドバイスをいただきながら朗読練習を重ねたおかげで、発音に自信がつきました。一緒に参加した学生たちから受けた刺激はかなり大きかったです。それまでは同じ授業を受ける何十人の中国語学習者しか知りませんでしたが、他クラスの学生や他大学の学生たちの熱意を感じて、自分も負けていられないと焦りを覚えました。夏の短期留学で実力を伸ばすために準備を怠らず、胸を張って帰国できるように励みたいと思います。

スピーチコンテストの様子

“南京で食べた美味しいもの”

グローバル女性人材養成プログラム(中国)の参加者が絶賛する研修中に“南京で食べた美味しいもの”を紹介します。

●地三鮮(ジャガイモ、ナス、ピーマンの炒め物)

南京大学宿舎の前の「老地方」という名前の中華レストランのメニュー。

●牛肉面

繁華街「新街口」で食べた台湾式の太麺ラーメン。辛いものが好きなので癖になりそうでした。

協力：金倉茉美さん、 山田実果さん

センター及び国際課の活動

2016/10/6	新入留学生オリエンテーション
2016/10/7	国際交流会館入居者説明会
2016/10/21	グローバル女性人材養成プログラム(NZ第2回)渡航説明会
2016/10/28	JSAF留学説明会
2016/11/7	CIEEボランティア説明会
2016/11/14	中国行政官来訪（JST さくらサイエンスプラン）
2016/11/15	グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)＆ グローバル女性人材養成プログラム(中国)　合同報告会
2016/11/16	留学生のための茶道教室
2016/11/18	グローバル女性人材養成プログラム(NZ第3回)渡航説明会
2016/11/30	留学生のためのいけばな教室
2016/12/9	グローバル女性人材養成プログラム(NZ第4回)渡航説明会
2016/12/16	グローバル女性人材養成プログラム(NZ第5回)渡航説明会

センター来訪者

2016/11/14	中国行政官（JST さくらサイエンスプラン）40名　来訪
2016/11/18	ジャパン・マレーシア交流プロジェクト2016　来訪
2016/12/18	アイルランガ大学　来訪

奈良女子大学　国際交流センター

NEWSLETTER Vol.45　2016年12月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL: 0742-20-3736
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html